

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成23年11月17日(2011.11.17)

【公開番号】特開2010-92175(P2010-92175A)

【公開日】平成22年4月22日(2010.4.22)

【年通号数】公開・登録公報2010-016

【出願番号】特願2008-259996(P2008-259996)

【国際特許分類】

G 0 6 F 9/50 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 9/46 4 6 5 E

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月3日(2011.10.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

入力データを複数の分割データに分割する分割手段と、

前記分割データのそれぞれに対して所定の処理を施して処理済分割データを生成する処理手段と、

各々が一つ以上の前記処理済分割データを含む複数の分割データ群をそれぞれ参照して複数の中間データを生成し、該複数の中間データを結合して出力データを生成する生成手段とを備える情報処理装置において、

前記処理済分割データを記憶する一時記憶手段と、

前記複数の分割データ群のうち、前記一時記憶手段に記憶された処理済分割データを含む分割データ群を選択して、該選択された分割データ群に含まれるすべての処理済分割データが前記一時記憶手段に記憶されているか否かを判定する検知手段とをさらに備え、

前記検知手段が前記判定を行った結果、

前記すべての処理済分割データが記憶されていると判定された場合に、前記生成手段は、前記選択された分割データ群を参照して中間データを作成した後に、該選択された分割データ群に含まれるすべての処理済分割データを前記一時記憶手段から削除し、

一部の処理済分割データが記憶されていないと判定された場合に、前記処理手段は、該一部の処理済分割データを優先的に生成することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】

前記処理済分割データのそれぞれに、該処理済分割データと同じ分割データ群に含まれる他の処理済分割データを特定する参照データ特定情報を付加する付加手段をさらに備え、

前記検知手段は、前記参照データ特定情報に基づいて前記判定を行うことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記検知手段は、前記一時記憶手段に新たな処理済分割データが記憶されるごとに、該新たな処理済分割データを含む分割データ群を選択して前記判定を行うことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記処理手段は、複数の分割データに対して時分割に前記所定の処理を施し、

前記一部の処理済分割データを優先して生成する場合、該一部の処理済分割データに対してより多くの処理時間を割り当てることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記処理手段は、複数の分割データを一つずつ選択して前記所定の処理を施し、

前記一部の処理済分割データを優先して生成する場合、該一部の処理済分割データを生成するための分割データを優先して選択することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

前記入力データはインタレース映像データであり、前記出力データは該インタレース映像データをプログレッシブ変換したプログレッシブ映像データであり、前記分割データは該インタレース映像データのフレームであることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記入力データは複数の画像データであり、前記出力データは該複数の画像データを合成した合成画像データであり、前記分割データは該複数の画像データのタイルであることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

入力データを複数の分割データに分割する分割手段と、

前記分割データのそれぞれに対して所定の処理を施して処理済分割データを生成する処理手段と、

各々が一つ以上の前記処理済分割データを含む複数の分割データ群をそれぞれ参照して複数の中間データを生成し、該複数の中間データを結合して出力データを生成する生成手段と、

前記処理済分割データを記憶する一時記憶手段と
を備える情報処理装置の制御方法において、

前記複数の分割データ群のうち、前記一時記憶手段に記憶された処理済分割データを含む分割データ群を選択して、該選択された分割データ群に含まれるすべての処理済分割データが前記一時記憶手段に記憶されているか否かを検知手段が判定する検知工程を有し、

前記検知工程において前記判定を行った結果、

前記すべての処理済分割データが記憶されていると判定された場合に、前記生成手段は、前記選択された分割データ群を参照して中間データを作成した後に、該選択された分割データ群に含まれるすべての処理済分割データを前記一時記憶手段から削除し、

一部の処理済分割データが記憶されていないと判定された場合に、前記処理手段は、該一部の処理済分割データを優先的に生成することを特徴とする制御方法。

【請求項 9】

コンピュータを請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置の各手段として機能させるためのコンピュータプログラム。